

小田原市博物館基本構想（概要）

- 課題**
- 老朽化と移転問題を抱える郷土文化館
 - 既存施設間の機能分担と連携【松永記念館・尊徳記念館・天守閣・文学館など】
 - 活用を待つ豊かな地域資源【史跡・歴史的建造物・祭事・なりわいなど有形無形の文化財】

基本的な考え方と目指す姿

－小田原の歴史を未来へ伝え市民とつくる博物館－

上記実現への4つの視点

- 小田原の歴史をたどる
小田原市域を主体としつつ、広く隣接する地域をも対象。広い視野に立って活動を展開する
- 「小田原の宝」を守り未来に伝える
博物館資料+地域資源＝「小田原の宝」が、適切に保存・活用される環境を整える
- 市民とともに活動する
市民とともに活動し、時代の要請に応じて成長する
- まちをまるごと博物館にする
新しい博物館が中核となり、既存施設や市民とともに、まちをまるごと博物館と見立てて活動する
本市の文化観光の推進に寄与する

－新しい博物館－ Odawara New Museum

方向性

- 小田原の歴史・文化を伝える
歴史総合博物館
※歴史・考古・民俗分野を主体とする
- 誰でも使いやすい博物館
※ユニバーサルデザインを導入する
- 市民と育てる博物館
※市民と博物館が協働、活動に市民の声を反映する
- 学校教育と連携した博物館
※需要の掘り起し、授業への活用を図る
- 災害に強い安全な博物館
※利用者の安全、資料の保全を確保する
- 情報を集約し発信する博物館
※「小田原の宝」の情報を網羅し提供する
- 連携の中核となる博物館
※既存施設の機能補完、地域資源の回遊拠点とする

活動

- 学びを支える・分かち合う
－教育・普及－
※様々な資料を用い、利用者の学びを支援する
- みせる・知らせる
－展示・情報発信－
※誰にでもわかりやすい展示をし、常設展は定期的な見直しを行う
- 調べる・明らかにする
－調査・研究－
※市民と協働した活動も行い、その成果を生かす
- 集める・守り伝える
－収集・保管－
※収集した資料や情報を将来にわたって活用できるようにする

施設設備・立地

- ・登録博物館、公開承認施設としての要件を備える
※国宝・重要文化財が展示できる
- ・地域資源が集中し、交通の利便性が高い城址公園周辺が候補地
本市の現状に則して検討する

運営・組織

- ・入館料は原則無料を前提に検討する
- ・館の運営主体は活動の継続性を重視して選定する
- ・館の方向性と活動を実現できる職員体制を整える
- ・外部より客観的な意見を得る場を定期的に設ける